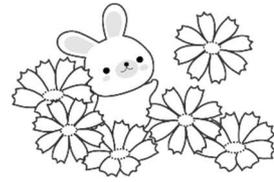




みかんぐみだより



10月

2019年10月1日

尚徳福祉会 おぐら保育園

みかんぐみ 担任

9月に入り、ご家庭の都合でお休みしていたお友達が保育園に登園して、18人全員がそろいました。寒暖差などで体調を崩すお子さんも多い月でしたが、ふと気が付くとご飯をよく食べるようになる、スプーンを上手に持つ、物の名前が知りたくて「これは？これは？」と尋ねてくる、たくさんのお友達が来てくれました。体調の変化が、生活のしやすさに直結しやすい小さな子どもたちです。ご家庭と連携をしながら、体調管理に努めていきたいと思います。

走る！跳ぶ！くぐる！！

走るの大好き！な1歳児。靴を履いてドアが開くと一斉に走り出します。お部屋の中ではマルチパーツと呼んでいる牛乳パックの積み木からのジャンプを一人始めると、仲間が集まってきて「ジャンプ」とつぶやいて跳んでいます。保育園の棚は子どもたちの出入り口。通ることができる幅があっても棚をくぐって移動します。腕の力、指先の力がついてきて、ぶらさがることも大好きで、入り口のドアにもぶらさがっています。

涼しくて過ごしやすい季節になりました。

体をたくさん動かして遊びたいと思います。



イヤイヤ期

「イヤとって大変でした」という言葉を連絡帳にご記入いただくことが増えました。クラスでも「ご飯だよ～」「いやだ」「おしっこ行く？」「でてない（出ます…）」生活場面の切り替えではそんなやりとりを日々繰り返しています。

「ぐりとぐら」の作者の中川李枝子さんは『いやいやえん』の作者でもあります。「子どもが安心してイヤイヤし、自分の思いを表現できる環境は大切。親や保育士が安全地帯だからこそできるのです。」と書いていました。いつか過ぎていくこの時期を、手帳に書き残すこともお勧めしていました。皆さんもいかがですか？

おともだちだいすき！

一人一人に大好きなおもちゃがあります。じっくり遊んでる友達のおもちゃは別のお友達にはとても魅力的に映るようです。言葉が少しずつ増えているとはいえ「一緒に遊びたい」「ぼく（わたし）も使いたい」とまでは伝えられず、友達が使っているおもちゃを持っていくことがあります。

使いたかったの？〇〇君のかっこよかったから使いたかったんだって、双方の思いを二人にお話ししていると、当然のこと取られた側は「だめよ」。でもちょっと考える姿があって「どうぞ」と取られたおもちゃを渡します。二人とも『ニッコリ』。

別の日に泣いていた子にその子の大好きなおもちゃを持ってきてくれた男の子がいました。上のやり取りでおもちゃを譲ってもらった子でした。

「どうぞ」してもらった体験が次の「どうぞ」することにつながるのかな、と感じた体験でした。実はこの関わり、クラスのあちこちで見かけるようになりました。「だめよ」と伝えることも大切で、使いたい思いも大切にしながら、自分から「どうぞ」ができることが増えてきた子どもたちです。

